

# 開成の杜

第115号 ●2021年6月11日 ●郡山女子大学大学院 ●郡山女子大学 ●郡山女子大学短期大学部 ●郡山女子大学附属高等学校 ●郡山女子大学附属幼稚園

●発行所／学校法人郡山開成学園 〒963-8503 郡山市開成3丁目25番2号 ☎024(932)4848(代) <https://www.koriyama-kgc.ac.jp> ●発行人／学園長 関口 修



(撮影 山口郁生)

新たな躍動を迎える学園の春

## 危機の時にこそ教養を



理事長・学園長  
関口 修

私はテレビのニュース番組を見るのを習慣にしています。政治の流れを詳細に解説し、物事の本質理解に役立ち、老化防止にもなっています。

大きな災害が発生したときにはニュースの果たす役割が大きく、最も忘れられない災害は、東日本大震災に直面したときのことです。

立って居られない程の揺れと、壁が割れる音に恐れを懐き、長い揺れが続くなか、廊下に出て目にしたのは、火事かと思ふ程の粉塵でした。

学内には若干の学生・生徒と教職員がいましたが全員の無事を確認し、安堵しました。学内の生活インフラは問題なく動いていましたので帰宅困難となった学生・生徒・教職員や家屋が被災した近隣の人々に避難場所を提供できました。

翌日からは原子力発電所が津波で破壊され、水素爆発し、避難命令がでた為、多くの避難者に頼られました。しかし数々の多さに対応出来なかったことは申し訳ない思いが残っています。

原子力発電所事故の被災状況と、現在の新型コロナウイルス感染症による罹患被害を比較してみると、同じような問題を指摘できると思います。判断基準は沢山あります。最優先事項は人命の尊さ

です。原発事故では経済的価値をも命と併せて考慮したので、一瞬の躊躇いが発生し多くの尊い命を救うことができなかったと思います。災害の対策では何よりも人命が優先されなければなりません。経済は人間が産み出した活動なのです。人間が生きたために生活することが経済活動の始まりであることは誰しもが理解しています。

古来「二兎を追うもの一兎をも得ず」との諺は広く知られています。日常生活から生まれた訓えは平易ながらも貴重で尊重されなければなりません。

日本は戦争で全てを失いました。そこから国民の壮絶な努力により、現在の生活を営むことができるまでになりました。

生命の危機にある今、家族や友人を大切に護り、健全な社会を育むときなのではと考えます。

新型コロナウイルスに感染する危険に脅かされ、対策を万全にすれば感染を防げるといふ日々のニュースを参考にし、感染対策を遵守しても、感染者数は少なくなりません。

社会が混乱するときには他人を誹謗中傷する風潮が蔓延するようです。コロナ菌を忌嫌うのは誰でも同じ思いですが、罹患した人を誹謗するのは教養がない人なのではないでしょうか。

今こそ物事の本質を求め、周囲の人々を大切に、教養を積み気品を育む機会としたいと思います。

# 「生活科学科」がスタート!

郡山女子大学家政学部生活科学科 主任 山形 敏明 教授

本年度より、人間生活学科は学科名を「生活科学科」と変更し、生活総合・福祉・建築デザイン3コース制から、社会福祉専攻・建築デザイン専攻の2専攻制に再編しました。

これまで人間生活学科では、個人および家庭、地域社会を生活者の視点から幅広く学修



生活科学科案内パンフレット  
「生活科学科」と名称を変更しました。

両専攻の開講科目は、専攻を跨いで選択受講することができ、各種資格取得の

し、人間生活の向上と地域社会の発展に寄与する研究・教育を積んできました。

幅も広がっています。本年度からは新たに、県内私立大学初となる「特別支援学校教諭免許」の取得が可能となりました。

情報科学をはじめ科学技術の急速・高度な進展により、私たちの生活は日々変化していま

多様化する価値観、地球規模での気候変動、さらにコロナ禍という未曾有の困難な状況に直面し、「新しい生活」の在り方を模索し始めています。

生活科学は、実践的学問です。各専門研究を深め、問題発見・解決能力を身につけて地域貢献に従事できる人材の育成に向けて、教育環境のさらなる充実を図り、学科教員一丸となつて取り組んでいきます。ご期待ください。

## 郡山開成学園同窓会 「開成いすず会」が正式に発足

大学、短期大学部、附属高等学校の三同窓会を統合した郡山開成学園同窓会「開成いすず会」は令和3年4月1日、正式に発足した。

理事長は大学同窓会会長の名倉美恵子さん、副理事長は短期大学部同窓会会長の安齊悦子さんと附属高等学校同窓会会長の大木恭子さんが務める。

開成いすず会の組織図と役員、事業計画、開成いすず会館(学生会館)案内、お知らせなどはリニューアルしたホームページで見ることが出来る。

平成30年4月より三同窓会の歩みと歴史を尊重しつつ、新たな時代に望まれる姿として統合への準備を進めて来た。会則には「三部会の連携と協力により、会員相互の友情を深め、協同の精神をもって個人的教養を修めるとともに、その発展を期し文化国家建設の一助として地方文化の向上に資する

ことを目的とする」と記した。ホームページのURL: <https://isuzukai.koriyama-kgc.ac.jp>



## 就職部より

令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大により想定外の就職活動の中で、前半に就職内定を得た学生と後半まで内定を貰えなかった学生との差が鮮明に現れた。今まで対面だった面接がオンラインに移行し、地域経済を支える企業も大きなダメージを受けた。

本年度の就職活動中の大学4年生・短大2年生は、今までになく各企業へのエントリー、会社説明会、エントリーシート提出は前年同期を上回っている。オンライン面接も増え、厳しい時代がやって来た。コロナ禍の就職活動は孤独になりがちだが、どの業界、企業、自分の強みは何か、深掘りしながら一人で考えてみる良い機会になるだろう。

日々の学生生活で培われる学びが、他者との建設的な共同作業や課題の設定、解決策の提案に至る経験になり、これが社会で必要な基礎力や仕事での向き合い方を身につける力になる。変化が大きく予測困難な時代において、主体的に新しい学びを続ける習慣を学生時代に身につける事が、社会に出てからも役に立つ。



## 令和2年度 附属高校における進路状況について

令和2年度卒業生の希望進路先合格・内定の割合は99%となった。目標の100%には届かなかったものの、ほとんどの生徒が第一志望の進路先に合格・内定をし、満足度の高い結果を得ることができた。進路先の内訳としては、進学が87%、就職が12%である。進学では本大学に17名、短大に42名が合格したのをはじめ、大学へ44名、短期大学に44名が合格した。昨年度は、コロナ禍の影響で、進学では本大学に17名、短大に42名が合格したのをはじめ、大学へ44名、短期大学に44名が合格した。

2021年3月31日現在(在籍139名)

## 令和2年度 附属高校進路先一覧

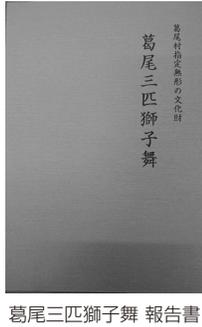
進路先	人数	進路先	人数	進路先	人数
大学 44名	郡山女子大学.....17	洗足学園音楽大学.....2	つくば国際ペット専門学校.....1	株式会社三万石販売コーポレーション.....1	
	福島大学.....2	東北公益文科大学.....1	新潟デザイン専門学校.....1	株式会社あいの里.....2	
	東海大学.....1		東京スイーツ&カフェ専門学校.....1	ALSOK福島株式会社.....1	
	淑徳大学.....1	短大 44名	東邦学園映画専門学校.....1	株式会社ツルハ.....1	
	立命館大学.....1	郡山女子大学短期大学部.....42		一般社団法人太田綜合病院.....1	
	常磐大学.....1	仙台青葉学院短期大学.....1	就職 16名	株式会社アガツマ.....1	
	白鷗大学.....1	宇都宮短期大学.....1		株式会社八幡屋.....1	
	日本大学スポーツ科学部.....1			株式会社アガツマ.....1	
	国立音楽大学.....1	専門学校 33名		株式会社アガツマ.....1	
	新潟医療福祉大学.....1	郡山ヘアメイクカレッジ.....2		株式会社アガツマ.....1	
	国際医療福祉大学.....1	国際医療看護福祉大学.....1		株式会社アガツマ.....1	
	神奈川大学.....1	太田看護専門学校.....2		株式会社アガツマ.....1	
	鎌倉女子大学.....1	ポラリス保健看護学院.....1		株式会社アガツマ.....1	
	千葉科学大学.....1	郡山看護専門学校.....5		株式会社アガツマ.....1	
	聖徳大学.....1	郡山健康科学専門学校.....2		株式会社アガツマ.....1	
	文星芸術大学.....1	日本調理技術専門学校.....1		株式会社アガツマ.....1	
	東北学院大学.....1	国際アート&デザイン大学.....2		株式会社アガツマ.....1	
	尚絅学院大学.....1	国際ビューティー&フード大学.....5		株式会社アガツマ.....1	
	富士大学.....1	仙台スイーツ&カフェ専門学校.....2		株式会社アガツマ.....1	
	日本大学工学部.....2	東北外語観光専門学校.....1		株式会社アガツマ.....1	
	奥羽大学歯学部.....1	仙台医健スポーツ専門学校.....1		株式会社アガツマ.....1	
	東北芸術工科大学.....1	いばらき動物専門学校.....1		株式会社アガツマ.....1	
	開智国際大学.....1	日本工学院八王子専門学校.....1		株式会社アガツマ.....1	
		尚美ミュージックカレッジ専門学校.....1		株式会社アガツマ.....1	
		文化服装学院.....1		株式会社アガツマ.....1	
				その他.....2	

# 葛尾三匹獅子舞

郡山女子大学短期大学部幼児教育学科  
一柳 智子 教授

本学と葛尾村は、包括的地域連携を締結しており、相互協働のもとこれまで諸々の活動を実施してきました。そして、令和2年度末、葛尾村指定民俗文化財である葛尾三匹獅子舞に関する記録保存のための報告書が上梓されました。

葛尾村教育委員会をはじめ、葛尾地区の人々、宮司さん、保存会の方々の協力によりまとめられた本報告書は、こうした地域の人々とのラポール構築を基としています。民俗調査というものは、おそらくいかにAIが発達したとしても、どの部分も代替不能な分野であります。



葛尾三匹獅子舞 報告書

人の伝承行動や地域に根付いた人間関係という重層的世代感に加えて、舞踊動作や信仰はビッグデータとしても扱いきれないものといわれています。

三匹獅子舞は、主に関東甲信越地方以北の東日本に分布しています。福島県には三匹獅子舞系の芸能が多数分布し、県内各地域それぞれの系譜を持っています。葛尾三匹獅子は、芸能の形態等から、関東地方のものに類似点が多く、いわき地方経由ではないかと推測されます。

ただ、近隣地域の苅宿(浪江町)に「しし舞」がありますが、「鹿舞」と表記することや登場人物の人数等、仙台方面からの伝播を想定できるものもあります。葛尾は津島(浪江町)との関係が深く、日山信仰も加えて前者の関係でとらえることのほうが系譜としては近いと思われれます。



葛尾三匹獅子舞(左から女獅子、太郎獅子、次郎獅子)

葛尾の歴史とともに魅力ある三匹獅子舞の伝承は、東日本大震災及び原発事故、新型コロナ禍、さらには根本的な時代の趨勢である少子高齢化等に対して対応可能な抵抗力を蓄えて、今後の新たな継承を生み出していきたいと希望しています。

## 料理で地域に貢献

郡山女子大学家政学部  
生活科学科 4年  
飯村 菜月 さん

大学生生活科学科4年の飯村菜月さんは、3月に行われた「きのこ料理コンクール全国大会」に福島県代表として出場し、日本特用林産振興協会長賞を受賞しました。数々の料理コンクールに出場し、複数の全国大会の経験もある飯村さんの思いを紹介します。『私が料理コンクールに挑戦し続ける理由は、2つあります。1

つ目は、地元・郡山市湖南町の活性化を図るためです。高齢化が進んでいる湖南町を若い世代が活躍して盛り上げたいと考えています。考案するレシピには、高校時代に研究した湖南町の郷土料理を取り上げたり、特産物を使用したりしています。

2つ目は、福島県の食材の良さを全国に伝えたいからです。東日本大震災と原発事故の風評被害により、福島県の食材や特産物は受け入れられにくい状況があります。放射能検査で確認されることにより、安全・安心で美味しいということを、

料理コンクールを通して全国に伝えていきたいと思ったのです。私は、きのこ料理コンクールをはじめインスタントラーメンオリジナル料理コンクールなど様々なコンクールに出品し、入賞してきました。私が継続して挑戦できているのは、附属高校食料科で基礎から専門的な知識と技術を学ぶことができたからです。また、先生方の熱心なご指導のおかげだと感じています。

私は、これまでに高校で調理師免許を取得し、短期大学部健康栄養学科で栄養士免許を取得しました。現在は家政学部生活科学科で中学校・高等学校家庭科の教員免許取得のため勉強に励んでいます。家庭科教育が重視されている昨今、3

## 新CMを制作

郡山女子大学と郡山女子大学短期大学部の新しいテレビコマーシャル(CM)が5月下旬から福島県内で放送されている。CMは学生募集を目的として制作。各学科・専攻で学び、なりたい職業や資格取得につながることをアピールした。



大学編

撮影は学内の特徴的な場所で行い、大学編は「答えは一つだけじゃない」「夢はここから」短大編は「なりたい明日に歩き出そう」「夢はすぐそこ」などのナレーションを入れた。



短大編

2021年度  
オープン  
キャンパス  
始まる

本学を志願する高校生らを対象に、各学科の特色や入試制度の説明、模擬授業、個別相談などを行い、適切な情報発信に努めている。開催日は、いずれも日曜日で今後、7月11日、8月8日、9月12日、来年3月6日に予定している。

問い合わせは入学事務・広報部 電話024(932)4848へ。



## 大学・短大で生活安全講話 リモート配信で開催

大学と短期大学部の生活安全講話は5月26日、学内でリモート配信を併用して行われた。郡山警察署生活安全課の郡司雅彦生活安全係長と安孫子由佳少年警察補導員を講師に招き、犯罪被害に遭わないための心構えや行動などを学んだ。郡司係長は多発する特殊詐欺やネット利用犯罪など最近の傾向を説明。女性が被害者になる性犯罪やストーカー行為に対する警戒と自己防御の重要性を強調した。

安孫子補導員は具体的な事例についてアニメーションも使って説明し、身近な人や警察署などへの早めの相談を呼び掛けた。



犯罪被害に遭わないための行動を学んだ講話

## 83年館バリアフリー化

現在、83年館の北側ラウンジ脇にエレベーターを設置するバリアフリー化工事が行われている。エレベーターは11人乗り1基(積載750kg)で、構造は鉄骨造亜鉛メッキ板葺4階建て。障がいのある学生らが使用できるようにする。ほかに1階入口にスロープと自動ドアを設ける。完成予定は今年9月30日。

# 入学 ようこそ開成の杜へ

## 大学院・大学・短大・専攻科 391名

## 希望の春

郡山女子大学大学院の第13回博士課程、第28回修士課程、郡山女子大学第56回、郡山女子大学短期大学部第72回、同専攻科第22回の入学式は4月7日に行われた。

大学院博士課程と修士課程各1名、大学116名、3年次編入13名、短期大学部253名、専攻科7名の計391名が入学を許可された。

新型コロナウイルスの感染対策のため、昨年に続き、各科ご



関口学長の入学許可

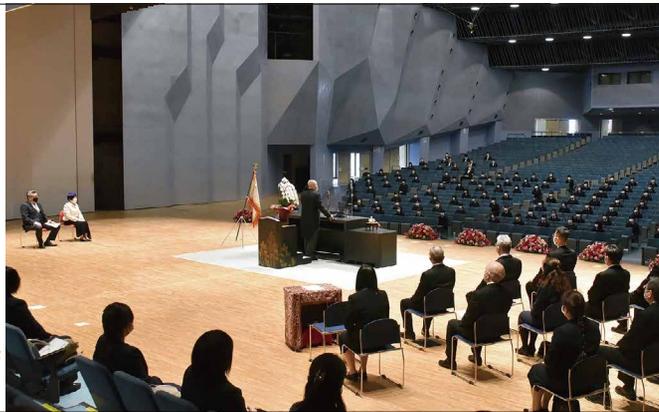


新入生誓詞 酒井夏海さん

とに教室に分散し、学長室から中継される動画を視聴する形式で実施した。

関口修学長が「建学の精神『尊敬・責任・自由』の重みを理解し、教養を磨いて、何事も自分で判断できる人になってください」と告辞した。

新入生を代表し酒井夏海さん(生活科学科)が「未来への希望を持ち、学問と教養を備えた、社会で活躍できる女性を指します」と誓った。



### 附属高等学校

附属高校の第65回入学式は4月9日、建学記念講堂で行われた。普通科83名、音楽科13名、美術科16名、食物科38名の計150名が希望を胸に高校生活をスタートさせた。

一人ひとりが呼名され、関口修校長から入学を許可された。関口校長は「人間として必要な知識を蓄え、教養を身につけ、気品あふれる人生を送れるよう努力してほしい」と式辞を述べた。

在校生代表の小林玲菜さん(3年)の祝辞のあと、新入生代表の水野香乃さんが「目標を持って努力を続け、勉学に励みます」と誓った。



### 附属幼稚園

附属幼稚園の第67回入園式は4月20日、建学記念講堂で行われた。年少・年中組の54名が父母と手をつなぎ式に臨んだ。

呼名され、元気に返事をすると、賀門康博園長が入園を許可した。賀門園長、関口修学园长が「みんなで楽しく、いっぱい遊んでください」と励ました。

新入園児は声をそろえ「よくきく・よくみる・よくかんがえて、げんきにあそびます」と約束した。



### 私が郡山女子大学を志願した理由



大学 生活科学科 菊地 亜実

私は建築について学び、一級・二級建築士資格を取得したいと考えています。また、私はリノベーションによって住みやすくなった家を見て建築に興味を持ちました。工学部や芸術学部の建築ではなく、キッチンから子供の姿が見えるようにしたり、段差を少なくしたりする、住む人のことを考える家政学部の建築を学びたいと思、本学を志願しました。



大学 食物栄養学科 佐々木 楓花

私は将来管理栄養士になり、疾患を抱え食事制限を余儀なくされている方が満足した食生活を送れるようにサポートしたいと考えています。本学は、企業との共同開発や地域連携活動が充実しており、より実践的な学びができるところに魅力を感じました。本学でたくさんの方に挑戦し、教養ある素敵な女性になれるよう日々努力して参ります。



短大 健康栄養学科 長久保 真望

中学生のとき、陸上部の顧問から食事で体の管理ができると教わり、食に興味を持ちました。食事で人々を笑顔にし、栄養面から健康をサポート

**卒業**  
飛躍を誓い新たな一歩

**大学院・大学・短期大学部**  
令和2年度の大学院第26回  
修了式、大学第52回卒業式、



短期大学部第70回卒業式、短期大学部専攻科第20回修了式は3月18、19日に建学記念講堂で行われた。

大学院修士課程1名、大学74名、短期大学部239名、専攻科5名の計319名が新たな一歩を踏み出した。  
新型コロナウイルスの感染防止のため、式は2日間で3回に分けて行われた。関口修学長が各科の総代へ卒業証書・学位記などを授与し、学園長賞の表彰状・記念品を手渡した。  
卒業の言葉では、それぞれの代表が災害や感染症に苦勞した中、困難に打ち克つ師弟や友との絆の大切さを語り、さらなる研鑽を誓っていた。

**附属高等学校**

附属高校の第62回卒業式は桃の節句の3月3日に建学記念講堂で行われた。普通科77名、音楽科14名、美術科9名、食物科39名の計139名が学び舎を後にした。

一人ひとり呼名の後、各科を代表し、普通科の青島美空さんが佐々木貞子校長から卒業



証書を受け取った。3年間の活躍や功績をたたえ学園長賞と学校長賞も表彰した。

佐々木校長が「危機や困難に遭つても当事者意識を持つて、自分や周囲の人とともに立ち向かう力を磨いていきたいと思います」と呼び掛けた。関口修学長長の祝辞、在校生の小林玲菜さんの送辞を受け、卒業生の伊藤さやかさんが答辞を述べた。

**附属幼稚園**

第66回卒業式は3月20日、建学記念講堂で行われた。園児50名が名前を呼ばれ、元気に返事をして賀門康博園長から卒業証書を受けた。記念樹の梅の木も手にした。



**大学・短大・附属高校 卒業にあたっての受賞者**

- 【大学】
  - ▼学園長賞
    - 沖田侑理江(人間生活学科)
    - 矢内綾(食物栄養学科)
    - 阿曾瑞希(食物栄養学科)
    - 商業施設士協会会長賞
    - 七海麻姫(人間生活学科)
    - 社会福祉士養成施設協会会長賞
    - 沖田侑理江(人間生活学科)
    - 介護福祉士養成施設協会会長賞
    - 石田千鶴(人間生活学科)
    - 全国栄養士養成施設協会会長表彰
    - 青木はるか(食物栄養学科)
  - ▼短期大学部
    - ▼学園長賞
      - 二瓶彩香(健康栄養学科)
      - 小林春香(健康栄養学科)
      - 糠澤美羽(幼児教育学科)
      - 湯浅塔子(幼児教育学科)
      - 鈴木美里(幼児教育学科)
      - 渡邊咲良(地域創成学科)
      - 志賀夏香(地域創成学科)
      - 全国栄養士養成施設協会会長表彰
      - 加藤千夏(健康栄養学科)
      - ▼日本フードスペシャリスト協会会長表彰
      - 品川美咲(健康栄養学科)
      - ▼全国保育士養成協議会会長賞
      - 松崎愛美(幼児教育学科)
      - 情報処理士協会会長賞
      - 濱津郁美(地域創成学科)
    - 【附属高等学校】
      - ▼学園長賞
        - 青島美空(普通科)
        - ▼学校長賞
          - 宇佐美紀香(普通科)
          - 伊藤さやか(普通科)
          - 渡邊早紀(普通科)
          - 菊地彩花(音楽科)
          - 櫻井美歩(音楽科)
        - ▼皆勤賞
          - 石井桃花・熊倉恵花・小池和妃・佐藤朝美・星日向葵・細川結衣・宗形実香・中村絢・深澤玲菜・柳沼妃花里・小沼姫・草野可愛・柳沼葉奈・児島美音・小柳実羽・星宮萌奈(普通科)／菊地彩花・櫻井美歩・佐藤優衣・榎内花音・柳沼胡春(音楽科)／浅野紗矢・伊藤舞唯那・伊藤真凛・佐藤芽依・鈴木理緒奈・中原琴葉・仲松愛生・舟橋静・星凛・矢内千恵・山口紗英・渡辺乃映(食物科)
  - ▼特別教育活動功労賞
    - 青島美空・佐藤しいな・原花穂・柳沼葉奈・石井さくら・木田遥香
    - 佐藤朝美・柏原風沙・郡司咲梨・本田恋桜・今野世実(バレーボール部)／小池和妃・中村絢・酒井夏海・伊藤さやか(卓球部)／帰山晴南・滝田優菜(剣道部)／香西愛海・根本奈緒・岩谷香澄・草野可愛・小柳実羽・安齋郁美(ハンドボール部)／柳沼胡春・深澤玲菜・赤沼琴音・佐藤菜摘・石井桃花・小向いぶき・菅野美桜・小沼姫・西澤あかり・渡辺真生・永井千聖・水野琴香・菅野未空・五十嵐美月・西條美咲・本多琴葉(マーチングバンド部)／菅野未空・加澤くるみ(美術科)／安齋郁美・新田奈美(食物科)
  - ▼生徒会役員功労賞
    - 伊藤さやか・小柳実羽・清水晴香・佐藤礼奈(生徒会)
    - 根本奈緒・榎内花音(風紀委員会)
    - 円谷華帆・松本和(整備委員会)
    - 大森唯寧・神谷華澄(保健委員会)
    - 帰山晴南・安齋郁美(体育委員会)
    - 吉田彩桜・田崎瑠南(出版委員会)
    - 添田侃楠・今関ひな(図書委員会)
  - ▼部活動功労賞
    - 本田彩風(卓球部)／柳沼妃花里(テニス部)／山口紗英(陸上競技部)／細川結衣(弓道部)／小林舞・山田思穂・及川玲奈・真壁李奈・渡邊早紀・佐久間未羽・佐藤奏音・佐藤陽菜・佐藤優衣・榎内花音・遠藤芽依・大内捺蒔・金澤朋花・佐藤芽依・榎新綺乃(合唱部)／芦名桃花(演劇部)／今関ひな(科学部)／遠藤朱香(書道部)／増子三寿々(英語部)／秋葉舞白(放送部)
  - ▼日本私立中学高等学校連合会会長賞
    - 伊藤さやか
  - ▼福島県私立中学高等学校保護者会会長賞
    - 山口紗英
  - ▼全国調理師養成施設協会会長賞
    - 宮田佳奈

トできるような基礎栄養学や給食論実習などの専門知識を学びたいと思ひ、本学を志望しました。将来、夢である食に関わる仕事に就くために2年間勉学に励み、知識と技術を身につけたいと思ひます。

**私が附属高等学校を志願した理由**



附属高等学校 普通科  
石井 晴恵

私の夢は生徒から慕われる中学校の教員になることです。そのため、高校卒業後は四年制大学への進学を希望しています。私は特進クラスに在籍しており、進路実現のために日々勉強に励んでいます。また、学習面だけではなく、評議員としてリーダー講習会などに参加することで、広い視野とコミュニケーション能力を養ってきたいです。勉強と部活を両立しながら、充実した高校生活を過ごしていきます。

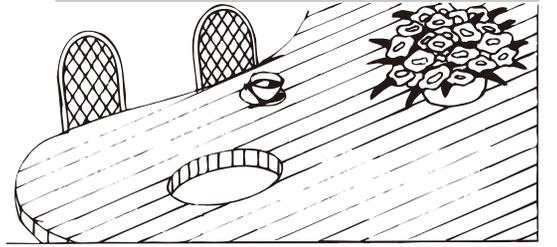


附属高等学校 音楽科  
吉川 真優

私は小学生の頃から続けてきたフルートの演奏技術を更に高めたいと思ひ、県内で唯一音楽科がある附属高校を志願しました。今、憧れていた音楽科での生活がスタートし、マンツーマンでのレッスン等を通して先生方が私達のやりたいことを熱く応援してくださることを実感しています。これからより一層自分の好きなことに打ち込んでいきたいと思ひます。

# ティールーム

コミュニケーション・フォーラム



## 「日本の幸福度」

幼児教育学科 准教授 折笠 国康

国連が実施する『世界幸福度調査』をご存じでしょうか。統計処理の質に優れた研究者の間でも、高く評価されている調査です。調査結果から、日本の幸福度は低く、幸福度を持ち日常生活を送る日本人は少ないということが示唆されています。

豊かで、安全で、清潔で、医療技術にも優れ、GDPも高い日本がなぜ幸福度が低いのでしょうか。調査結果が示す日本の幸福度の低さに影響を与える最大要因は「人生選択の自由」、「他者に対する寛容性」がそれぞれ著しく低いことに起因しています。

日本人の多くが持つセロトニン運搬遺伝子は、肯定的、否定的な情報の両方に強い感受性をもつことが示唆されています。つまり、日本人は好ましい環境では大いに幸福感を感じ取ることができ、その一方で、好ましくない環境では、必要以上に幸福感を感じ取ることができない性質を遺伝的に持っているということです。



他者の失言や不祥事に過剰とも思える糾弾をする昨今の状況は、自ら自分達の自由を奪い、幸福度を下げる環境をつくっていると言えらるでしょう。建学の精神「尊敬・責任・自由」を熟感する上で、調査結果が示すことは大切な視点になると思います。

## 「森への感謝」

附属高校講師 河内 和男

風薫る爽やかな季節がやってきました。この時期になると思い起こされるのは、幼稚園や保育園の子どもたちと一緒に行った、どんぐりから育てた苗の植樹活動です。

私は、10年間ほど教員の仕事を離れ、森づくりや森に関わる仕事をいろいろ手伝ってきました。その中でも多く参



子どもたちとの植樹活動にて

加したのが、東京に拠点を置くNPO法人「こどもの森づくり推進ネットワーク」での活動です。特に思い入れが深い活動に、東日本大震災後に岩手県沿岸部の山田町で、津波被災園を含む複数の保育園と行った森づくり活動です。

秋にどんぐりを拾いプラントーに植え付け、翌春芽を出した苗を1年間育て、次の年の春から梅雨の間に植樹を行います。毎年違う子どもたちがお相手ですが、遠くからやってくるインストラクターのおじさんを子どもたちは温かく迎えてくれました。さらに楽しんで活動していた姿は忘れられません。

初期に参加した子どもたちはまもなく高校生。教員に戻った今は、遠くから子どもたちと森の健全な成長を、心から願い、思いをはせるこの季節です。

## 「これから私」



短大 地域創成学科2年 佐々木 百花

短大2年生に進級し、卒業後の進路についてより深く考えるようになりました。私は学芸員の資格を取得するため専攻科へ進学したいと考えています。

私が学芸員を目指したいと思ったきっかけは、附属高校での修学旅行です。ハワイのビショップ博物館に行ったのですが、そこで様々な展示物や展示の仕方を見てとてもわくわくしました。博物館の展示を自分も作りたいと思うようになり、博物館学芸員課程

がある地域創成学科に入学することを決めました。

学芸員課程を学んでいく中で学芸員の仕事や資料の扱い方など博物館のことについて多くのことを学びました。短大の2年間では学芸員補の資格しか取得できないので、学芸員の資格を得るため専攻科へ進学したいと思うようになりました。専攻科は少人数で各分野についてより深く学ぶことができるので、専門性が求められる学芸員の仕事をすすめる上で、とても役立つと思います。

今年の専攻科への進学は、面接だけでなく、小論文も追加されました。私は小論文が苦手なものでしつかり対策を行っていたと思います。そして、専攻科に進学した後には、学芸員になるために自分の専門分野をしつかり磨いていこうと思います。



## 私の本棚

### 『ローマ帽子の謎』ほか

(創元推理文庫)

郡山女子大学附属高等学校

事務職員 柳沼 久裕

私の小・中学校時代の読書遍歴は、片寄りも甚だしく、推理小説一辺倒でした。小学校では、少年探偵団やルパン全集を片っ端から読み、中学校に入ると、さらにどっぶり

手前味噌は、自家製の味噌の味を自慢することから、自分のことを自分で褒める時や、自慢する時に使われる言葉です。以前は各家庭で作られていた味噌ですが、現在はスーパーなどで購入する方が多いのではないのでしょうか。なので、自家製味噌の味を自慢する機会も減ってしまいました。

材料のバランスや作り方のちよっとした違いによって、全然違う味に仕上がるところも味噌の魅力です。

## 生活診断室 シリーズ 67

### 手前味噌

郡山女子大学 食物栄養学科 准教授 亀田 明美

味噌の材料は、大豆・塩・麴の三つです。作り方もとても簡単。大豆を柔らかく炊いて潰し、塩と麴を加えてよく混ぜ、容器などに詰めて空気を抜き冷暗所で保管しておけば、発酵が進んで半年ほどで食べられるようになります。

我が家ではここ数年味噌を作り続けています。自家製の味噌で作った味噌汁を飲む度に、幸せも味わっています。

と推理小説にはまり、アガサ・クリスティーンを中心に文庫本を買ひあさりしました。中でも、私が中学・高校時代に最も傾倒したのが、標題で紹介した『ローマ帽子の謎』に始まり、計9作品作られたエラリー・クイーンの「国名シリーズ」です。事件解決前に、「読者への挑戦状」と題して、「この段階までに、必要な情報は全て提示した。賢明な読者ならば犯人を突き止めることができるはずだ。」という言葉に触発されて、何度も、読み返したことが

が昨日のことのようによみがえってきます。その後私は、国語科教師として公立中学校に長く奉職させていただきました。私の国語力の基礎は、この読書経験で培われたように思っています。

自分なりに「謎解き」にチャレンジすることで、論理的思考力が養われた気がしますし、難解な言葉を辞書で引く癖もつきました。まさしく「好きこそものの上手」。最近また、昔読んだ文庫本を手に取り、読み返しています。

# ようこそ 郡山開成学園へ

## 新任教職員の方々のご紹介

### 郡山女子大学

(4月1日付)

〔本採用〕

**近内 直美** 講師  
郡山女子大学家政学部生活経営学科卒  
平成30年から期限付講師  
所属 生活科学科

**伊藤 央奈** 准教授  
福島県立医大大学院医学研究科博士課程修了  
博士(医学)  
平成30年から期限付講師  
所属 食物栄養学科

**星 千歳** 講師  
郡山女子大学家政学部食物栄養学科卒  
平成30年から期限付講師  
所属 食物栄養学科

### 短期大学部

〔本採用〕

**佐藤 愛未** 講師  
中央大学大学院文学研究科博士課程修了  
平成28年から期限付講師  
所属 地域創成学科

**宇治 和子** 准教授  
奈良女子大学大学院人間文化研究科博士後期課程修了  
博士(学術)  
常磐大学人間科学部心理学科准教授  
所属 幼児教育学科

**関 葵** 助手  
郡山女子大学家政学部食物栄養学科卒  
所属 健康栄養学科

**小林 若菜** 助手  
郡山女子大学短期大学部専攻科文化学専攻修了  
所属 地域創成学科

### 附属高校

〔本採用〕

**平山 早織** 教諭  
山形大学地域教育文化学部卒  
平成30年から期限付講師  
担当 英語

**大内 健** 講師  
日本大学工学部卒  
日本大学東北高校非常勤講師  
担当 数学

**杉本 稜弥** 講師  
報科学科卒  
福島市立岡山小学校講師  
担当 数学

**柳沼 久裕** 職員  
埼玉大学教育学部卒  
郡山市立緑ヶ丘中学校校長  
所属 図書館高校分館長

**島中 秀樹** 職員  
日本大学工学部卒  
郡山市政策開発部長  
所属 事務室長

**遠藤 奈津子** 職員  
白鷺大学法学部卒  
平成28年から期限付職員  
所属 教務部

**柳原 仁** 職員  
福島県立矢吹高校卒  
令和2年10月から期限付職員  
郡山ビューホテル調理師  
所属 家庭寮調理師

### 事務局

〔本採用〕

**昇任**  
源川 博久(大学・食物栄養学科) 教授  
長田 城治(大学・生活科学科) 准教授  
伊藤 央奈(大学・食物栄養学科) 仲田 佐和子(短大・地域創成学科) 教頭  
平栗 洋三(附属高校) 伊藤 清和(附属高校)

### 異動

松尾 智美(附属高校)  
大学・食物栄養学科  
坂上 茂(短大・健康栄養学科)  
短大・健康栄養学科  
源川 博久(大学・食物栄養学科)  
附属高校  
鈴木 奈津子(短大・健康栄養学科)  
大学図書館  
西勝 ようこ(附属高校)  
高校事務室  
鈴木 真美(管財部)  
管財部  
村田 菜織(高校事務室)  
就職部  
本多 泰治(入学事務・広報部)  
入学事務・広報部  
岸本 圭生(就職部)  
放送大学福島学習センター(出向)  
五十嵐 理恵(教務部)

令和2年度に退職された方々  
3月末日で次の方々が郡山開成学園を退職されました。これまでのご尽力に心から感謝するとともに、今後のご活躍(ご健勝)をお祈り申し上げます。  
第一定年  
草野 葉子(短大・幼児教育学科准教授)  
會田 容弘(短大・地域創成学科教授)  
依願退職  
堀 琴美(大学・人間生活学科)  
富士盛 公年(短大・幼児教育学科教授)  
佐々木 貞子(附属高校・校長)  
渡邊 泰夫(附属高校・教諭)  
笹田 浩司(事務局・放送大学福島学習センター事務長)  
期限付採用者 雇用期間満了退職  
三瓶 令子(短大・幼児教育学科教授)  
高橋 寿実(短大健康栄養学科助手)  
八巻 好照(附属高校事務室長)  
佐藤 舜(附属高校・講師)  
三善 瑠美(附属高校・講師)  
渡辺 智博(附属高校・講師)  
池下 勇男(事務局・入学事務広報部長)

# NEWS 学園ニュース

## 全国高校選抜大会 ハンドボール部がベスト16

附属高校ハンドボール部は第44回全国高等学校ハンドボール選抜大会(3月24日~29日、山梨県甲府市)に出場し、見事2勝してベスト16に輝いた。

附属高校は1回戦で向原(広島県)に「35-7」で快勝、2回戦は国分中央(鹿児島県)を接戦の末「21-20」で破った。3回戦は北海道第二(茨城県)と延長までもつれ「24-30」で涙をのんだ。

## 卓球部は初戦惜敗

附属高校卓球部は第48回全国高等学校選抜卓球大会(3月25日~28日、三重県津市)に出場した。トーナメント方式の初戦で強豪の鎮西学院(長崎県)と対戦し、健闘したが、「1-3」で敗退した。

## 大学生5名を 少年補導員に委嘱

大学生生活科学科生活総合コースの学生、鈴木麻祐、芳賀さくら、成田遙香(4年)、高德奈歩、吉村美紀(3年)の5名が今年度、郡山地区少年補導員に委嘱された。



郡山警察署管内で非行防止や健全育成活動などに努める民間ボランティアとして、本学で初めて委嘱を受けた。県警本部長からの委嘱状を手にした学生たちは、明るい地域づくりに役立ちたいと誓った。

## 小松太志准教授 モダンアート展で受賞

短大・地域創成学科准教授の小松太志氏は第71回モダンアート展で最高賞に次



「滾々」(こんこん)

## 先輩を訪ねて



本田 美幸 さん  
平成9年度 短大食物栄養専攻卒

本田美幸さんは、短大卒業後、(株)柏屋に就職し商品開発を担当。「蒸し饅頭やどらやきなど主に和菓子商品の試作、提案、現場指導を行っています」。そして本田さんは先頃、附属高校食物科との「開成プリンセスポテト」の共同開発を担当さ

ぐ第70回記念賞・村井正誠記念美術館賞を受賞した。モダンアート協会主催で4月2日~16日に東京都美術館で開かれた。小松氏は「滾々」(こんこん)を出品。静謐で時間が停止したような世界でも絶えることなく湧き出る生命のイメージを表現した。

## 大学HPをリニューアル

新年度から大学ホームページ(HP)TOPページをリニューアルした。

メインカラーをピンクからスクールカラー(めばえカラー)に変更。お知らせや各学科の情報などにつながるブログの位置をメイン画像のすぐ下に動かし、より目に留まるようにした。

また、入試情報やオープンキャンパスの案内、交通アクセスなど閲覧頻度が高いコンテンツをタイトル型のレイアウトにすることで、目的のページを探しやすく、スマートフォンでも見やすいようになった。

れました。「高校の校長先生から柏屋の本名善兵衛社長に熱い思いが届いたことがきっかけでした」。附属高校OGでもある本田さんは、この縁を大切にしたいと思い、「食物科の生徒さんが考えた『作品』を『商品』にするためのお手伝いをさせていただきます」。

生徒が育てたさつまいもの味を引き出せるよう、生徒と共に試作や試食を繰り返し重ね、商品化することができました。「発表会で生徒さんの嬉しそうな顔を見ることができて、私も嬉しくなりました」と笑顔の本田さん。また一人、素敵な先輩にお会いできました。

### 復興の灯火プロジェクト

短期大学部は東日本大震災発生から10年となった3月11日、郡山駅西口駅前広場で「復興の灯火(ともしび)プロジェクト」を実施した。

震災の犠牲者の鎮魂と福島県の復興への思いを後世に伝えようと、郡山市との共催で企画した。併せて伝統文化をまちづくりで活かす地域貢献活動として繰り広げた。市内中田地区の海老根伝統手漉き和紙を用いた灯笼600基を展示。灯笼には地域創成学科と幼児教育学科の学生をはじめ、附属高校や市内の高校の美術部・書道部の生徒、小学生、一般市民らが思い思いの絵や文字を描いた。

また、震災と福島第一原発事故により郡山市などに避難



郡山駅前広場で繰り広げた復興の灯火プロジェクト

した浜通り地方の住民も賛同し、感謝や復興を願う思いを込めた灯笼を展示した。

灯笼の口ウソクに火が灯されると、和紙に描かれた模様鮮やかに浮かび上がり、幻想的な雰囲気になった。家族連れら多くの市民が見物に訪れた。

### 鏡石町特産品商品開発に附属高校生が協力

「食と健康」の分野で本学と連携協定を結ぶ岩瀬郡鏡石町の特産品商品開発に、附属高校の生徒が貢献した。食物科の生徒が特産の岩瀬キュウリなどを使った「キュウリリゾット」、町内産リンゴを入れた「りんごどら焼き」など6品を開発、美術科の生徒がパッケージデザインを考え、商品化した。

商品開発は令和2年度事業で取り組み、今年2月21日に町内で商品発表会が開かれた。キュウリの食感や味付け

に特長があるリゾット、スライスされたリンゴの酸味とサツマイモの甘さが絶妙な、どら焼きなどが生徒らによって紹介された。

商品はそれぞれ3月から鏡石まちの駅「かんかんてらす」(JR鏡石駅隣)などで販売されている。

一部の商品は限定のため売り切れるほどの好評を博した。



りんごどら焼き

キュウリリゾット

### 屋上菜園苗植え

62年館に設けられた屋上菜園で、短期大学部健康栄養学科2年生が野菜栽培に取り組んでいる。

卒業研究の一環として、自ら農産物を育て収穫する苦労と喜びを知ろうと始まった。

5月20日に36名の学生と會田久仁子主任教授ら教員がJA福島さくらの協力で指導を受け、畑の整備から苗植えまでを行った。トマトやキュウ



屋上菜園で苗を植える健康栄養学科2年生

リ、ナス、サツマイモ、ゴーヤ、バジルなど18種類を育てている。グループごとに交代で水やり、除草などを行い、収穫を心待ちしている。

### 米粉麺レシピ作り

大学は、岩瀬郡天栄村の電子部品メーカー「アルファ電子」が商品化した米粉麺「う米(まい)めん」を活用したレシピ集を作成する。

新産業創出を支援する郡山市のコーディネート事業の提案を受け、米粉麺事業の拡大を目指す企業との連携が実現した。

5月10日に短期大学部健康栄養学科1年生36人が、大学食物栄養学科の郡司尚子准教授の指導で米粉麺を使い、けんちんうどんを調理した。アルファ電子の樽川千香子専務から米粉麺の特色、ゆで方な



企業と連携し米粉麺のレシピ作りを始めた実習

どの説明を聴いて取り組んだ。

1年生は実習で得た知識を参考に、麺を用いた料理のレシピを考案。その後、食物栄養学科の4年生が卒業制作として、味付けや手順などをまとめたレシピ集を完成させる。

### 新しい本が届きました。第16回

## 郡山女子大学 大学図書館

大学図書館では、去る2020年12月4日、17日の両日に書店の現場で学生が本を選ぶ「選書ツアー」を実施しました。今回は学生が選んだ本を紹介します。

**自炊力**  
料理(レシピ)以前の食生活改善スキル  
白央篤司著、光文社  
請求記号 596.11Ha

**正伝岡田以蔵**  
松岡司著、戎光祥出版  
請求記号 289.1110

**荀彧**  
曹操を高みにおし上げた悲劇の才俊  
源元一郎著、鳥影社  
請求記号 913.611Mi

**日日是好日**  
「お茶」が教えてくれた15のしあわせ  
森下典子著、新潮社  
請求記号 791.0411Mo

## 第66回卒園記念屏風 附属幼稚園

令和2年度の卒園児が描いた記念の屏風です。楽しく遊んだ思い出とともに、サッカー選手や野球選手、お医者さん、看護師さん、歌手、ケーキ屋さん...など将来の夢がいっぱいあふれています。



まつ組 「ようちえんのおもいでとゆめのふうせん」



やなぎ組 「みんなのゆめにはながさいたら」

本学所蔵 紙上美術展 94

## 木もれ陽

「福島県はみんなの原風景が、たつぷり含まれていますね」。昨年10月の芸術鑑賞講座に出展した日本画家の齋正機氏は、私の問い掛けに答えた。田植えの後、鏡のような水田に学校へ向かう児童の列が映し出された作品を見て「懐かしいな、この光景」と思った。齋氏が描いたのは私が訪ねたことのない只見線沿線だった。それでも記憶のどこかに引つ掛かる。ふと考えた時、故郷の畦道を通学した自分の姿が浮かんできた。絵画や写

真を見て、あたかも自分が、その場にいたと錯覚することがある。既視感というより、最初の体験や印象に左右されるのだろうか。山登りで木々の間をぬって稜線に出た瞬間の眺望、波打ち際で跳びはねる子どもたちの歓声、夕方の朱と紫が入り混じった空を飛ぶトンボの群れ...。確かに福島県内は、まだ至る所で心を打つ原風景に出会える。温暖化で季節の訪れが不規則になる懸念も増すが、決して失くしてはならない。(哲)